

森林教室 ～実施結果の考察と今後の課題～

下北森林管理署 主事 ○中塔 花梨 主事 木村 咲人

1 はじめに

近年、地球温暖化などといった環境問題に対して森林の果たす役割に注目が集まっています。一方で現代社会では、森林や林業に触れる機会が少なくなってきました。

このため、森林と人々の生活や環境との関係について理解を深める森林環境教育や木育の重要性が叫ばれています。

その中で、未来を担う子供たちを対象とした森林教室は、地域の森林について理解を深め、興味を持ってもらう良い機会となります。

森林教室は、限られた時間の中で興味を持ってもらえるように、構成を工夫することが重要です。そこで、令和4年度に実施した森林教室の取り組みを通して、今後の森林教室をどのように進めていけば良いか考えてみることにしました。

2 取組・研究方法

(1) 実施までの流れ

令和3年12月にむつ市の教育委員会をとおして市内の小中学校、及び、東通村の小学校計22校に案内を送付し奥内小学校から開催可能との回答を得ました。

令和4年1月から6月にかけて3回程度の打合せを実施し、7月に奥内小学校の生徒を対象とした実施前のアンケート調査を行いました。

アンケートの結果から実施内容を検討したうえで、8月に森林教室を開催しました。

また、森林教室終了後には感想を提出してもらうことにしました。

(2) アンケートについて

アンケートは大きく3つに分けて「山や森での経験」「下北半島の木や動物」「森林・林業のイメージ」と全部で10問程度の簡単な内容としました。

アンケートの結果については、山・森での経験として、「山や森に行ったことがありますか？」という項目では、約9割が「あまり行かない」「行ったことがない」という回答で、山や森での経験が少ないことが分かりました。

また、「行ったことがある」「あまり行かない」と回答した生徒に山に行ってどんなことをしたか聞いたところ、「山菜採り」や「魚釣り」など山ならではのレジャーを楽しんだり、滝などの景色を見に行ったという意見もありました。

次に下北半島の木や動物について、「下北半島に生えている木の名前を知っていますか？」という項目では、多い順に「サクラ」「スギ」「ヒバ」「マツ」という結果でした。

この結果から、青森県の木として指定されている青森ヒバを知っている生徒が3割未満と少ないことが分かりました。

また、低学年のクラスでは、木の名前を知らないという生徒もいました。

一方で、「下北半島に住んでいる動物の名前を知っていますか？」という項目では、「クマ」「カモシカ」「サル」「リス」「ウサギ」のほかたくさん動物が挙げられました。

次に森林・林業のイメージについて、「山や森の木を切ることについてどう思いますか？」という項目では、7割以上の生徒が「良くない」と回答し、木を切ることについて否定的なイメージを持っていることが分かりました。

また、「将来山や森に関わる仕事をしたいと思いますか？」という項目では、6割以上の生徒が「思わない」と回答し、将来山で働きたいと考えている生徒はいませんでした。

写真1：実際に回答していただいたアンケート用紙

これらの結果から、奥内小学校の生徒たちは地域の森林について知っていることが少ないこと、森林・林業に触れる機会が少ないため興味・関心が薄いことが分かりました。

このことから、森林教室の構成は、地域の森林について知ってもらい、興味・関心を引き立てるために座学と体験の2部構成にしました。

さらに、座学は理解度に応じて1・2年生と3～6年生で分けることで、生徒のレベルに合わせた内容になるように工夫しました。

(3) 森林教室の実施内容

①座学

座学は先生との打合せで通常の授業時間よりも少し長い50分としました。

実施内容は大きく3つに分けて、「森のはたらき」「森林管理署・森林官の仕事」「下北の森林」について説明しました。

これらは、環境教育、キャリア教育、地域学習の側面があります。

1・2年生は、「森のはたらき」「森林管理署・森林官の仕事」「下北の森林」について紙芝居を用いてわかりやすく説明し、職員がヘルメットや防蜂網を着用して現場に行く格好を見せたり、輪尺などの道具を触ってもらったりと楽しみながら話を聞いてもらえるように工夫しました。

3～6年生はスライドを活用しクイズを交えながら対話形式を進めることで、低学年より難しい内容を理解してもらえるように工夫しました。



写真2：森林教室（座学）の様子

②体験

丸太切り体験・コースター作りでは青森ヒバと広葉樹の丸太を用意し、実際にノコギリで切ることで木の堅さの違いや、木を切ることの大変さを体感してもらいました。

また、自分で切ったものにペイントをすることで、一つしか無い味わい深いコースターができました。

葉作りでは葉っぱや花びらを用意し、自由にデザインしてもらうことで自分だけの葉を作ってもらいました。

班分けをしないことで生徒たちは好きな方を自由を選択し、葉を何枚も作る子や、何度も丸太切りに挑戦している子、数人で交代しながら丸太を切る子たちも見受けられ楽しんでもらえたように感じました。



写真3：森林教室（体験）の様子

3 結果

森林教室実施後の感想は、一枚の紙を配り自由に書いてもらう形にしました。

生徒たちからは「森は災害を防ぐことや水を送っていることを初めて知って、森が必要なんだと思った。」「木をたくさん伐ることを心配していたが、また植えると聞いて安心した。」「木の種類や動物の名前、森林管理署の仕事を知ることができて良かった。」「クイズもあり、楽しみながら学ぶことができた。」「木を切ったり、葉を作ったりして楽しかった。」などの感想が聞かれました。

これらの感想からも、今回の森林教室は「環境教育」「キャリア教育」「地域学習」の効果があつたと考えられます。

アンケート調査の改善点については、森林教室の実施前に「山や森についてのアンケート」を実施し、実施後は自由に感想のみを書いてもらう形でした。

しかし、感想のみを書いてもらったため実施前と実施後の理解度の比較が難しいことが分かりました。

次回からは実施後にも実施前と同様のアンケート調査を行うことで、結果の比較が容易になり、森林教室の内容を再検討する際に参考にすることができると考えます。

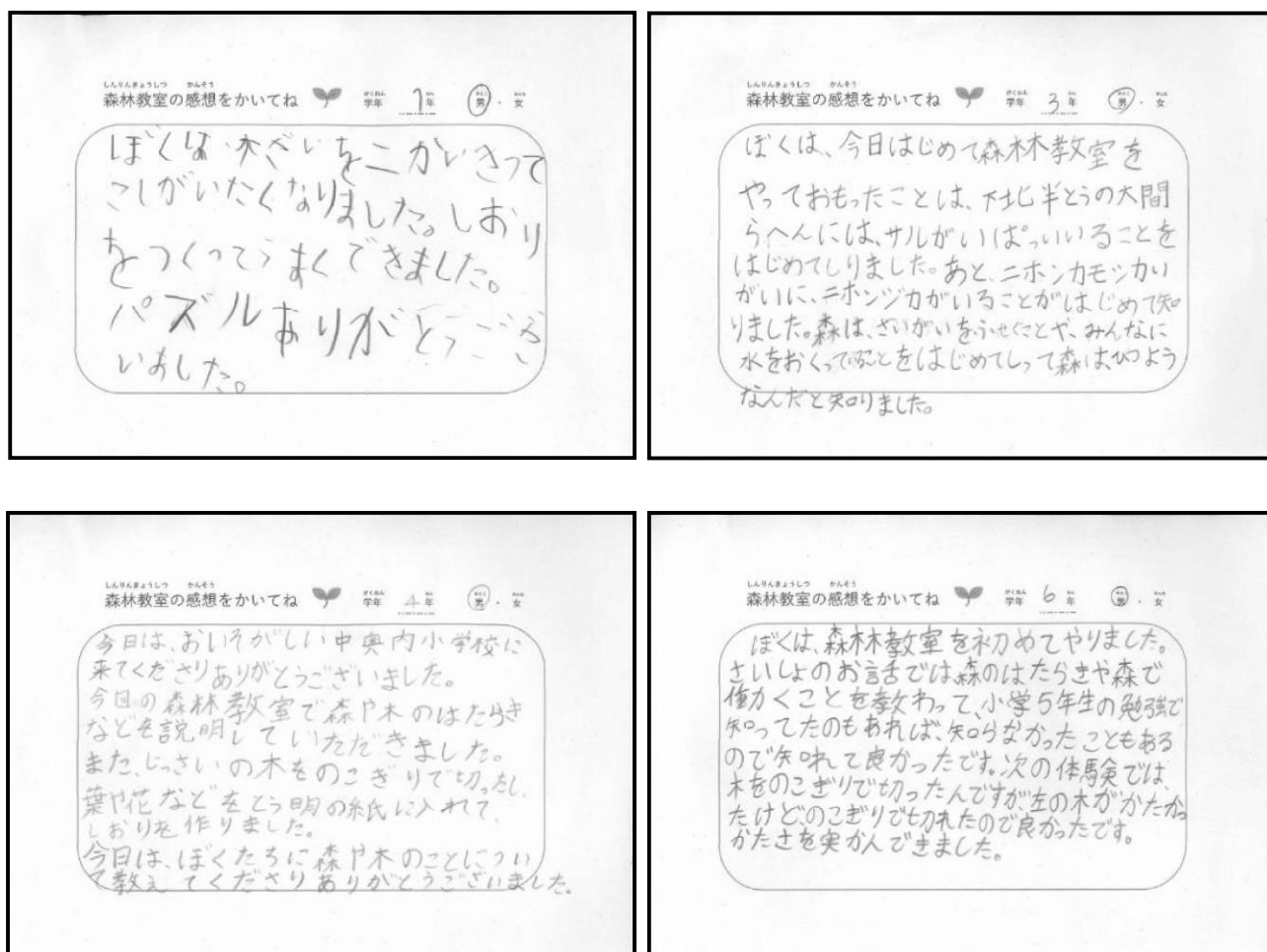


写真 4：森林教室実施後の感想

4 考察・結論

実施後の感想の結果から、森林教室は子供たちの興味・関心を引き立てる有効な手段であることが再確認できました。

限られた時間の中で、より興味・関心を引き立てるためには、内容の充実が不可欠となります。

学年を考慮したうえで生徒に合った内容にすること、地域特有の自然環境に触れた内容にすること、また、実際に触ったり、切ったり、見たりするなど、五感を使って学ぶことで楽しい・面白いなどの感情が湧き、興味・関心につながってくると考えます。

今回は奥内小学校のみの開催であったので、今後は多くの子供たちに森林教育を提供する方法を検討することが必要と考え、放課後クラブや学童保育などで開催できないか市の受託業者と打ち合わせを行っています。

学童保育では夏休みや冬休みなど時間に余裕がある日も多いことや、既にオンラインでの体験活動をしている事業所もあることから、森林教室の輪も広がると考えております。

下北森林管理署では、今後も興味を持ってもらえるような森林教育を継続して実施していきたいと思っております。